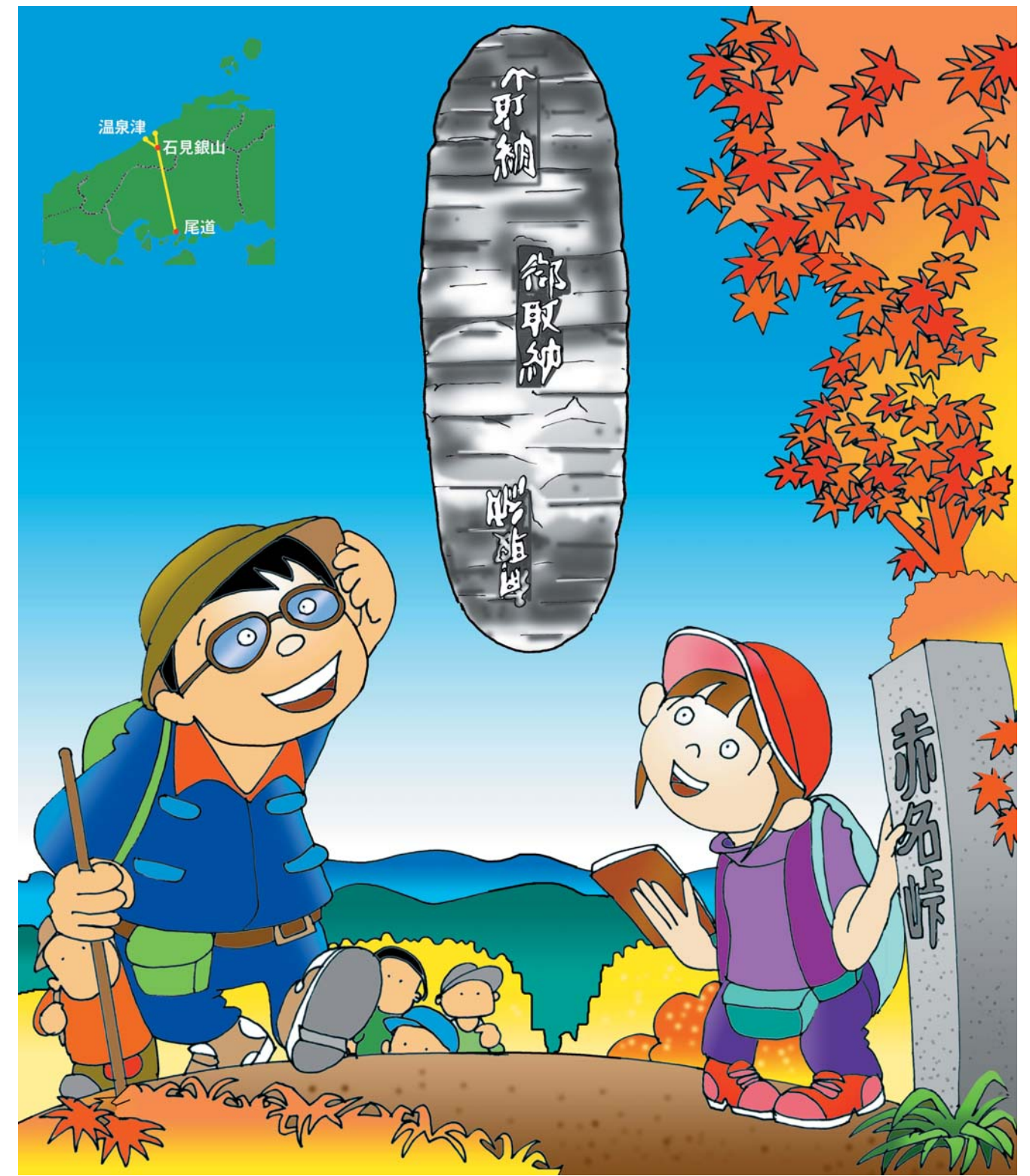
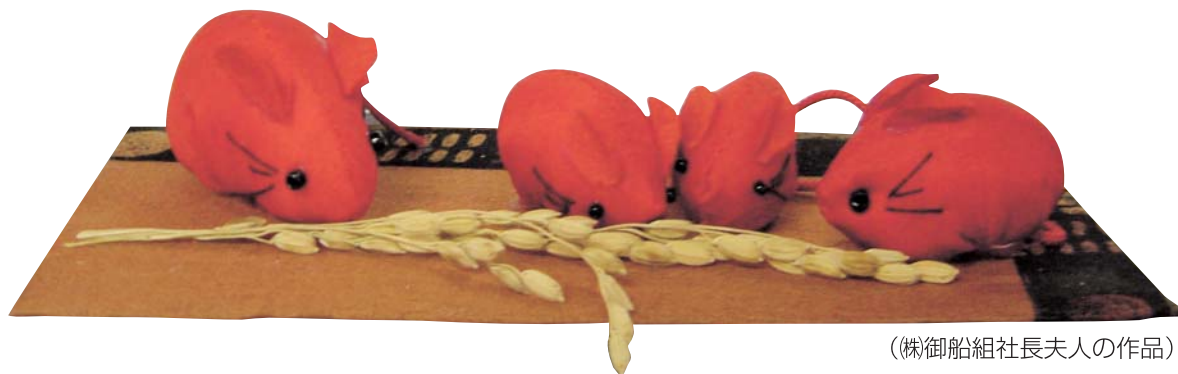


建設会報 いずも

No.117 2008年1月号



編集・発行人 (社)島根県建設業協会出雲支部
経営改善研究委員会



(株御船組社長夫人の作品)

C O N T E N T S

- 巻頭言／中筋 豊通〔(社)島根県建設業協会出雲支部長〕…1
 - 新年のご挨拶
 - ／渡邊 茂〔国土交通省出雲河川事務所長〕……3
 - ／澤田 真也〔出雲労働基準監督署長〕……4
 - ／森山 裕夫〔出雲県土整備事務所長〕……5
 - 安全委員研修視察報告
 - ／西谷 義興〔安全委員会担当副会長〕……6
 - 明日の建設業のイメージアップのために
 - ／久文 秀典〔(社)島建協出雲支部青年部会長〕……7
 - 平成18年度施工優良建設工事表彰 ……9
 - 優良建設工事表彰を受賞して／金築 章〔(有)金築組〕…11
 - ／宇野 斉〔(有)米江組〕…12
 - 年男の抱負／岩成 健治〔岩成工業(株)〕……13
 - ／三島 一男〔ミシマ産業(株)〕……14
 - 編集後記／三原 昇〔経営改善研究委員〕……15
-



60周年 初心忘るべからず

(社)鳥根県建設業協会出雲支部
支部長 中筋豊通

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

さて、昨年は食品業界による賞味期限改ざんや食品表示偽装が発覚、ミートホープ、「白い恋人」の石屋製菓、伊勢の赤福、大阪の船場吉兆……。さらに、建設業界でも、建材メーカー・ニチアスの耐火性偽装、栗本鉄工の橋梁型枠の強度改ざん、東洋ゴムの不燃性能偽装、正しく、安全・安心の信頼が失われる事件が続き、「偽」に代表された悲しい一年でした。

平成20年「子年」、新たなるスタートの年ですが、出雲支部に取りましても、創立60周年、記念すべき年を迎えました。皆様に取りましても協会に取りましても、素晴らしい年でありますよう、お祈り致します。

さて、昭和53年、創立30周年式典の、馬庭克吉会長の挨拶文です。

『30年の歩み』

昭和23年……。

この年の7月、占領下の行政改革で内務省が解体。建設省が設置され、建設業法が制定されました。

それまで、簸川土建業会という集いの中でお互い同士の親睦につとめて参りました。我々の先輩は、時勢の移り変わりに眼をひらきまして、いち早く、出雲建設業協会を創立して、時の流れに対処いたしました。

初代会長は、故、宅和三郎。会員は、わずか25名でした。

昭和28年……。

創立後、5ヶ年が経過しました。この年の記録をひもときますと、会員数は44名。この頃から、斐伊川右岸の土地改良事業、神戸川の電源開発に伴う水利事業などが始まり、業界もとみに忙しさが加わりました。

昭和33年……。

創立後十年の歳月が流れ、会長も、故小野嘉一郎となり、会員数は、70名を超すに至りました。

然し、先輩たちは会長を中心に、いよいよ結束を固め、昭和36年とそれにつづく39年の災害に際しましても、全力を傾けてその復旧に貢献して参りました。

この間、また建築の分野にありましては、日新月歩の技術の進歩におくれることなく、自らを練磨して、学校建築をはじめ、多くの公共施設の建築に成果をあげて参りました。

昭和40年……。

昭和39年災害の、復旧第二年目に当ります。この年には、会員数はすでに100名近くになりました。

当時の会長、佐藤善吉は、業界をとりまく諸情勢を踏まえ、建設会館建築の議を提案しました。

この提案は会員の支持するところとなり、この年、国道9号線沿線の、大津の地に、広い駐車場を備えた立派な会館が建設されました。

爾来、十年余り、我々は、ここを我々の拠り所とし、業界に課せられました諸問題に取り組みながら、県下最大の会員数を擁します出雲の協会の、限らない発展の為に力を合わせて参りました。

昭和53年……。

この記念すべき年、本日現在の会員の数は、138名。この数は、創立当時の、実に5倍強。まことに今昔の感にたえずと言わねばなりません。

私共は、協会30年の歩みを顧みながら、先人の尊い訓えを謙虚に受けつぎ、関わりある各界からの指導を仰ぎ、自らにもさらにムチ打ち、拠点都市出雲を中心とした広域圏の中であって、地域社会の発展と相俟ちながら、次の一里塚へ向かって足並みを揃えて、限らない前進を続けていこうとしているものであります。

昭和53年30周年から、昭和61年5代 梅野悦宏会長へ、右肩上がりの時代が続き、平成9年会員数154社、出雲支部管内発注金額は、176億円にも及びました。

そして平成10年6代会長を仰せつかった年がピークの205億円、あれから10年がたち、現在114社で（昭和46年、37年前の会員数）、発注金額も100億円を割ろうとしています。

また、溝口新知事の鳥根県財政健全化指針によると、4年後、県の公共事業費はピーク時の約3割600億円になると予測しています。激変！我々の生き残りは可能でしょうか。

平成18年度施工の2千万円以上の工事934件中、30件が優良工事として知事表彰を受けました。そして、その内7件が出雲支部会員企業でした。会員の皆様、「どんなに厳しい時代がこようと、地域経済発展のために、地域の人々の安全・安心のために良い工事をしよう、会員同士研鑽を重ねよう。」この設立当時の精神が今も引き継がれているからこそその快挙ではないでしょうか。

品確法が出来て、もうすぐ3年が来ます。最低札イコール落札者では無く、技術力を含めた総合力により落札者が決定する「総合評価方式」の時代が市町村にも確実にやって来ます。また「ワンデーレスポンス」の現場が主流になってくるでしょう。「創意・工夫」に加え、「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」も大切になるでしょう。

創立60周年を迎えた今年、これからも地域のために、地元建設業は必要です。先人達の想いを忘れる事なく、皆様と共に努力を重ね頑張って行きますので、よろしくお願ひ致します。ありがとうございました。

◎「ワンデーレスポンス」とは

受注者からの質問、協議への回答は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることである。

